

ビジネスプランGP 古知野高生3人考案 ベスト100入り

江南市の古知野高校の生徒3人が、ハート形の容器を四つ合わせた分別ごみ箱「四つ葉のゴミバー」を考案し、「高校生ビジネスプラングランプリ」でベスト100に選ばれた。身近な問題に遊び心を交え、子どもへの分別教育に結び付けた発想が評価された。
(鈴木あや)



ビジネスプラングランプリでベスト100に選ばれた桐田さん(左)、田中さん(中)、五十川さん(右)江南市の古知野高で

分別楽々四つ葉のごみ箱

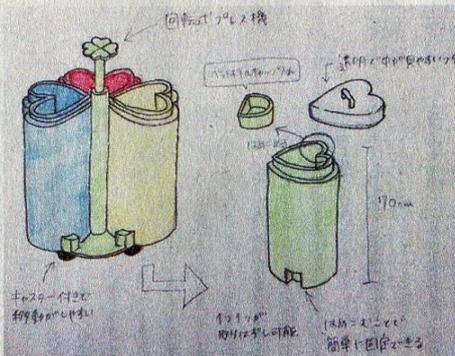


尾張版

平成28年

12月9日(金)

グランプリは二〇一三年で応募した。七月からプラてプランを作ったのでうれから日本政策金融公庫が地ンを練り始め、「一つのごみ域活性化の担い手となる若箱で分別でき、ごみ捨てもい世代への起業教育として 楽しめるように」と発案。実施。全国三百二十四校 ハートの容器ごとに燃えるから二千六百六十二件の応募を分け、臭い対策募があり、東海三県では古でふた付きに。中央には缶知野高校を含め六件がベストやペットボトルをつぶす圧ト百に入った。八日、同校 縮機も付けた。幼児も使えで表彰状が手渡された。 るよう、高さは七十センチ。分三人は商業科の田中優希 別内容が分かりやすいよう乃さん(左)、五十川実沙さに容器一つずつの色を変えん(中)と情報処理科の桐田た。 濡奈さん(右)。授業の一環 田中さんは「時間をかけ



古知野高生たちがデザインしたごみ箱